

北海道真狩高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において平成30年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	地域の特性を生かし、教育資源を活用することにより「有機農業コース」と「野菜製菓コース」の充実、発展を図ります。	定期販売会の実施や3年生全員のインターンシップ、プロジェクト学習をとおして充実、発展に努めた。	有機農産物の安定生産が確立できていない。スイーツの素材を学ぶ過程が不十分であった。	4
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	インバウンドをいかし、英語による地域農産物、加工品等の情報発信力を育成します。	10月、12月と計3回英語による交流、情報発信を実施した	英語科目とより密接に連携していく必要がある。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	講演会や先進地視察を含めた担い手研修を実施します。	年2回の講演会の実施、学年主導の視察を年6回企画実施できた。	講演者や視察場所の選定、実施時期の見直しの検討が必要。	4
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	地域生産物・素材の付加価値を高めるため、地域ブランド商品の継続開発を推進します。	大豆スイーツのコンテスト入賞、コンビニエンスストアでの商品化、豆腐ピザの定期販売の実施をした。	大豆以外の地域農産物の有効活用、商品開発にも着手する。	5
III 地球環境を守り創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	有機JAS認定を活用し安全・安心な農産物・加工品の生産製造と地域への発達力を高めま	プロジェクト学習において大豆、サツマイモの有機農産物に関する研究に取り組んだ。	天候不順や震災の影響で計画通りの栽培ができなかった。	3
	⑥「食農」教育を推進します。	生徒自ら栽培した作物、加工品を小中学校の給食に提供し、農と食の関係を伝える教育を推進します。	本校農場生産の枝豆、大豆を地元小学生に提供した。また御保内保育所の開所式に野菜スイーツの提供した。	給食提供には至らなかった。	2
IV 地域交流の拠点となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	地域企業・関連団体と連携して大豆100粒運動を実施します。	1年生42名を対象にジュニア豆腐マイスターを実施。我が村は美しく北海道運動で優秀賞を受賞した。	震災影響で5回実施予定が4回になってしまった。	3
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	村立学校の特色をいかし、保・小・中との連携農業学習をとおして、農業教育活動を地域に提供します。	大豆をとおした食育交流を年4回、そして合同販売会を実施した。保育園の花壇造成を実施した。	生徒主体の食育交流になるように農業クラブ執行部と連携、計画する必要がある。	3
V 地域防災を推進する学校	⑨機関・団体と連携した」教育を行います。	専門学校とのダブルスクールをとおして、加工技術の向上を目指します。	専門学校と協力し、4年連続製菓衛生師合格率100%を達成した。	さらなる専門学校と高校での横断的、統合的な学習内容の見直し。	5
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	防災対策に向けて、地域コミュニティを強化するために、村民とのつながりをより強くする活動を推進します。	地域の祭事参加(年7回)やボランティア活動(年3回)の実施。避難訓練の年2回実施。	実際の震災で得た教訓を基に防災対策の見直しが必要である。	3